

鷄肉情勢

令和6年6月10日 更新

全農チキンフーズ(株)

項目

1. 国内

2. 輸入

供給

2. 輸入

需要

1. 家計消費

2. 量販・卸

3. 業務・加工筋

在庫

1. 令和6年4月

2. 見通し

相場

1. 令和6年5月動向

2. 見通し

内容

(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和6年5月末実施)によると、4月の推計実績は処理羽数64,008千羽(前年比104.2%)、処理重量197.0千㌧(同104.3%)となった。前月時点の計画値通りの処理羽数となり、処理重量は2.1%上方修正された。4月上旬が気温が比較的低く成績を落とす農場もあったようだが、中旬-下旬は気候に恵まれた影響もあり増体が向上し育成率も良かったため、処理羽数・処理重量共に前年を大幅に上回った。

(2) 5月の計画処理羽数は土・日・祝日が前年から1日減少したことによる処理工場稼働日数の増加等により前年を上回る予想となっている。5月の計画処理重量は育成日数の減等により前年を下回る予想となっていたが、実際は各産地の増体が良く、産肉量は多かったとの声が聞かれる。
6月について処理羽数・処理重量は前年を下回る予想となっているものの、土・日・祝日が前年から2日減少したことによる処理工場稼働日数の増加が見込まれることに加え、4月・5月の入雛羽数が前年を上回る実績・計画となっていることから、実際の処理羽数・処理重量は前年を上回るのではないだろうか。工場の人員不足については外国人技能実習生が来日するようになったものの、処理羽数の増加や従業員の高齢化などにより、人員確保が難しくなっているとの声も聞かれる。副産品(小肉・剣状軟骨など)や切身といった加工品の調整を行っている産地もあるようだ。この傾向は暫く続く見通しだ。

(1) 財務省5月30日公表の貿易統計によると、令和6年4月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から▲0.7千㌧の52.0千㌧で、国別ではブラジルが前月▲0.9千㌧の34.9千㌧でタイが+0.6千㌧の16.5千㌧となった。前年同月の実績に対しては+4.6千㌧となった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、輸入量は5月が50.6千㌧(前年比97.9%)と前年からは減少しているものの、6月は53.0千㌧(同91.8%)となっており3月にかけて輸入量が減少傾向であったものの、6月については国内の堅調な鶏肉需要を見越してか、輸入量が増加する見通しだ。また、ブラジルの洪水による影響がどの程度になるか不明瞭だったが、現地の損害がそれほど大きくはなかったとの見方が多い。円安による現物価格が上昇しており、先物についても更なるコスト高が予想されるため、在庫を確保する動きが活発化しているようだ。

(2) 鶏肉調整品の輸入量は、前月から+6.3千㌧の44.6千㌧で国別では中国が+3.6千㌧、タイが+2.6千㌧となった。前年同月実績39.9千㌧との差は+4.7千㌧となり、前月比・前年比ともに上回る結果となり、月間輸入量が40.0千㌧を上回るのは4ヶ月振りだ。中国・タイともに生産は安定しているが、輸出元の需要の盛り上がりや為替(円安)の影響で価格高騰の状況が続いていることもあり、過去1年スパンで見れば減少傾向が続いてる。外食についてはコロナ禍が明けた影響等で昨年よりも回復しており、中食・総菜向け等の引き合いも安定的に継続している状況である。

(3) 財務省が5月30日に公表した貿易統計によると、4月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より16.1%上昇し、鶏肉調整品は中国が前年同月より11.2%上昇、タイが10.5%上昇した。解体品の国別価格は、ブラジル産の輸入価格が304円/kg(前月比▲2円)、タイ産が412円/kg(同+26円)となっている(国別平均価格)。国内市場価格はタイ産モモ正肉が500円前後まで上がっていることから国産品との価格差も薄まりつつある。

(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和6年4月の生鮮肉消費(購入)は数量4,140g(前年比96.6%)、金額6,358円(同95.6%)と、数量・金額ともに前年を下回った。鶏肉は数量1,509g(同96.0%)・金額1,539円(同98.3%)・単価102.0円/100g(前年同月+2.4円)と、数量・金額は前年を下回ったものの、単価は前年を上回った。調理食品が金額11,970円(同103.5%)、外食が14,217円(同103.8%)となっている。畜産の購入金額は牛肉・豚肉・鶏肉が前年を下回る結果となり、調理食品・外食は購入金額が前年を上回っている。物価高に伴う消費者の買い控えや4月は比較的降水量も多かったことから購入量が減少したことが推察される。共働き世帯の増加に伴う調理食品の需要増、外食においては、イベント開催の回復や入国規制緩和での外国人旅行者によるインバウンド需要もあり、回復傾向にあると考えられる。

(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和6年4月の食品売上高は全店ベースで前年比102.7%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同102.4%、既存店ベースは同101.3%となった。また、畜産部門の売上高は約1,183億円で全店ベースも98.9%、既存店ベース同97.8%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、前年に比べると週末が少なく、降水量も多かった影響に加え、牛肉・豚肉の相場が高止まりし、価格が安定して値ごろ感のある鶏肉への需要のシフトが堅調。為替の影響で輸入牛・輸入豚の価格が高騰しており国産肉の動きが堅調となったとコメントがあった。加工肉については値上げの影響もあり販売不振の店舗が多かったとのこと。総菜については雨の影響があったものの、行楽関係で焼き鳥などのおつまみ関連は好調に推移しているとのこと。人手不足による製造・開発等の対応遅れに苦心している店舗があったとのコメントもあった。

(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和6年4月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比105.5%の5.2千㌧となった。うち国内品は同111.9%の4.3千㌧と前年を上回り、輸入品については同84.0%の0.9千㌧と前年を下回った。

(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の4月末時点推定期末在庫では国産35.5千㌧(前年比128.9%・前月差▲1.4千㌧)、輸入品127.1千㌧(同106.3%・同▲2.0千㌧)と合計で162.6千㌧(同110.5%・同▲3.4千㌧)となった。

(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、4月の出回り量は国産147.4千㌧(前年比106.2%・前月差+5.9千㌧)、輸入品54.1千㌧(同98.7%・同+6.4千㌧)と合計で201.5千㌧(同104.1%・同+12.3千㌧)となった。12月以外で国産・輸入合わせた出回り量が200.0千㌧を超えるのは過去に無いため、鶏肉に対する需要・供給共に高い水準にあることが伺える。5月以降の在庫については輸入品在庫はほぼ横ばいで推移していることに加え、前述の6月の輸入量予測が53.0千㌧まで回復しており、円安などのコスト高に伴う先物価格上昇を受けて現物を確保する動きが強まっていることから直近では輸入品在庫は増加すると予測する。しかし、外食向けの動きが活発になっていることから業務筋での消化が進み、国産品の出回り量も増加していることから、在庫量は前年を上回る状況が直近では続くものの、徐々に国産在庫・輸入品在庫ともに減少すると予測する。

(1) 令和6年5月の月平均相場は、モモ肉631円/kg(前月差▲8円)・ムネ肉354円/kg(同▲2円)正肉合計で985円/2kgと前月を10円下回り、前年同月を197円下回った。モモ肉相場は月初637円、月末は623円となり(昨年は月初782円、月末760円)、前年の相場を下回った。生産においては、各産地の処理羽数増や増体向上等から、全国的に順調に推移した。国内在庫量が増加傾向だが、モモ肉については量販店の特売による消化が進み、ムネ肉については輸入牛肉・輸入豚肉の価格高騰等から加工筋向けの引き合いが強まっている。円安などによる輸入価格の高騰などから輸入鶏肉についても安い玉を探すことが難しくなっているとの声も聞かれる。ササミ・手羽もと・手羽さきなどは量販店・生協などからの引き合いは強まっており、内臓関係についても、外食筋の動きが活発になっている影響もあり徐々にではあるが引き合いは強まっている。鶏肉自体の需要は高まっているものの、供給量自体が増加している印象だ。

(1) 5月の生産量は前述にもあるように処理重量ベースで前年を下回る計画であるものの、全国的には生産が順調という声が多く聞かれるため実際は前年を上回っていたと考える。6月についても暦の関係で処理工場の稼働日数は多いことから処理羽数・重量ともに前年を上回り、この傾向は続くだろう。コロナ禍が明けたことから行楽需要が高まっており、鶏肉の引き合いが強くなることに期待したい。モモ肉においては量販店の特売用として販売している店舗も目立つ。ムネ肉は消費者への価格訴求品としての引き合いが強い。輸入鶏肉については前年から比較すると輸入量は増加傾向ではあるものの、為替の影響で安価で国内に流通することは考えにくい。6月のモモ肉相場はやや下げの月平均620円、ムネ肉相場は持ち合いの月平均350円と予測する。

(2) 4月の家計調査では、鶏肉だけでなく主な生鮮肉全てが前年の数量・金額を下回った。これはインフレによる消費者の買い控えの影響ではないだろうか。消費者の節約志向の高まりにより、安価な商品を中心に売れていると考えられる。量販店では、輸入モモ肉(解凍品)を販売している店舗も一部見られ、今後、高病原性鳥インフルエンザの影響で輸入量が少なかったブラジル産モモ肉が多く国内へ入荷される可能性はあるが、為替(円安)の影響により輸入量が急増することは考えにくい。5月の正肉相場は、全国的に生産量が多かったことなどから、正肉計1,000円を下回った。しかし、輸入牛肉・輸入豚肉の価格高騰により鶏肉へ需要のシフトが続いていることに加え、訪日外国人は増加傾向のためインバウンド需要も期待出来る。夏場の食肉需要自体の減衰も手伝い、モモ肉相場が徐々に下がる可能性はあるものの、鶏肉相場は順調に推移していくと思われる。

実績

生産状況

輸入動向

鶏肉の消費動向

在庫状況(推定)

出回り量(推定)

相場(月別)

単位:千羽、千トン、%

	R5年累計(推計)		R6年4月 推計実績		R6年5月 計画		R6年6月 計画		R6年7月 計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	784,087	101.2%	65,425	103.2%	65,658	101.9%	60,460	97.6%	61,499	98.6%
処理羽数	743,734	100.9%	64,008	104.2%	64,677	101.7%	60,902	99.2%	58,434	99.7%
処理重量	2,240.5	101.0%	197.0	104.3%	192.0	99.7%	182.4	97.5%	174.7	99.6%

※参考資料: (株)全国食鳥新聞社発行「PMN」

単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
R5年累計	584.9	574.5	101.8	478.0	525.8	90.9	1,062.9	1,100.3	96.6	55.0	45.0
R5年12月	51.0	44.3	115.1	44.3	40.4	109.6	95.3	84.7	112.5	53.5	46.5
R6年1月	54.7	44.4	123.3	35.7	34.3	104.1	90.4	78.7	114.9	60.5	39.5
R6年2月	55.4	47.1	117.6	34.3	32.1	107.0	89.7	79.2	113.3	61.7	38.3
R6年3月	52.7	47.5	110.8	38.3	40.6	94.5	91.0	88.1	103.3	57.9	42.1
R6年4月	52.0	47.4	109.7	44.6	39.9	111.9	96.7	87.3	110.7	53.8	46.2

※参考資料: 財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7
R5年平均	1,495	1,510	99.0	1,547	1,448	106.8
R5年12月	1,885	1,729	109.0	1,950	1,854	105.2
R6年1月	1,501	1,491	100.7	1,608	1,559	103.1
R6年2月	1,584	1,402	113.0	1,605	1,475	108.8
R6年3月	1,614	1,497	107.8	1,650	1,511	109.2
R6年4月	1,509	1,572	96.0	1,539	1,566	98.3

※参考資料: 総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯0世帯あたり)

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年11月	30.9	23.4	132.1	120.0	129.9	92.3	150.8	153.3	98.4
R5年12月	33.6	24.6	136.1	115.7	124.2	93.1	149.2	148.8	100.3
R6年1月	31.2	24.4	127.5	125.9	125.6	100.2	157.0	150.0	104.7
R6年2月	34.9	25.0	139.6	124.1	128.1	96.9	159.0	153.1	103.9
R6年3月	36.9	27.0	136.3	129.1	126.9	101.8	166.0	153.9	107.8
R6年4月	35.5	27.5	128.9	127.1	119.5	106.3	162.6	147.1	110.5

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年累計	1,683.1	1,685.4	99.9	563.3	604.1	93.3	2,246.5	2,289.5	98.1
R5年累計	1,689.0	1,683.1	100.4	606.3	563.3	107.6	2,295.4	2,246.5	102.2
R5年12月	152.3	151.8	100.3	55.3	50.0	110.5	207.6	201.9	102.8
R6年1月	142.1	137.2	103.5	44.5	43.0	103.5	186.5	180.2	103.5
R6年2月	140.3	133.0	105.5	57.1	44.6	128.1	197.5	177.6	111.2
R6年3月	141.5	140.8	100.4	47.7	48.8	97.7	189.2	189.6	99.7
R6年4月	147.4	138.8	106.2	54.1	54.8	98.7	201.5	193.6	104.1

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年度平均	700	702	99.7	384	371	103.5	1,084	1,073	101.0
R4年平均	662	641	103.3	348	313	111.2	1,010	954	105.9
R5年平均	730	662	110.3	395	348	113.5	1,125	1,010	111.4
R6年2月	682	800	85.3	369	414	89.1	1,051	1,214	86.6
R6年3月	661	799	82.7	364	411	88.6	1,025	1,210	84.7
R6年4月	639	789	81.0	356	410	86.8	995	1,199	83.0
R6年5月	631	774	81.5	354	408	86.8	985	1,182	83.3
R6年6月	(620)	745	83.2	(350)	405	86.4	(970)	1,150	84.3
R6年7月	(600)	709	84.6	(360)	398	90.5	(960)	1,107	86.7

※()は見通し